

SCIENCE TOPICS

サイエンス・トピックス

ホント!? スゴイ!?

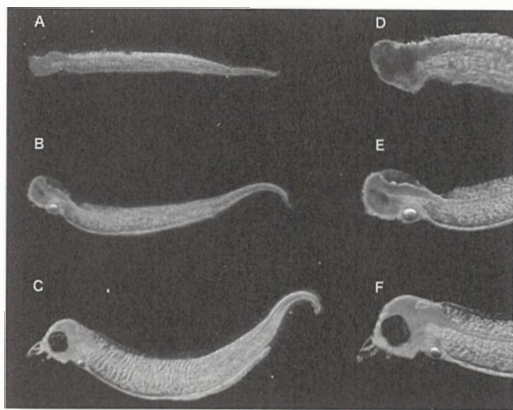
世界中の最新の科学の話題

ついに明らかになった ニホンウナギの産卵場所

「ニホンウナギはどこで産卵するか」は長い間の謎でしたが、東京大学海洋研究所のチームの調査で、産卵場所が明らかになりました。

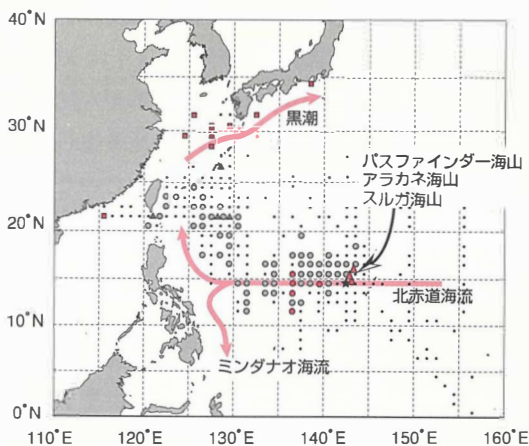
研究チームは、ほぼ50年にわたって集められた孵化直後の仔魚のデータや海流のデータなどを分析し、「ニホンウナギはマリアナ諸島の西にある3つの海山の近くで、新月のころに産卵する」と推測しました。そして、昨年6月の新月の日にあわせて、学術調査船「白鳳丸」でその海域を調査したところ、スルガ海山の西方およそ100kmの所で数百匹の仔魚（プレプトセファルス）を採集することに成功し、その仔魚の遺伝子を調べたところ、ニホンウナギの仔魚であることがわかりました。

次に、採集した仔魚の耳石を調べたところ、



ニホンウナギのプレプトセファルス(孵化したばかりの仔魚)。全長4.5～5.0mm。A:眼の色素が未発達、B:眼の色素がやや発達、C:眼の色素が発達。D、E、F:頭部の拡大写真。写真は同一倍率ではない。

(写真・図版提供:東京大学海洋研究所)



●はプレプトセファルス、▲は変態期仔魚、■はシラスウナギの採集測点をそれぞれ示す。

●は全長10mm以下の小型のプレプトセファルスが採集された測点を示す。●は採集努力を払ったにも関わらず、ニホンウナギの仔魚が採集されなかった測点を示す。★はプレプトセファルスの採集測点。

「仔魚は2～5日前に孵化し、産卵は新月のおよそ4日前」を示す結果が得られ、「スルガ海山付近で産卵された後に北赤道海流で西に運ばれたはずの距離」と「仔魚を採集した場所からスルガ海山までの距離」がほぼ一致しました。

研究チームは「①ニホンウナギの産卵域は大西洋を回遊する別種のウナギの推定産卵域よりはるかに狭いように思われる、②ニホンウナギの産卵場所は、仔魚が黒潮の北上し、東アジア沿岸の生息域に運ばれるために理想的な緯度に位置している、③狭い範囲で産卵することにより、仔魚が違う海流の生息域でない所に運ばれるのを防いでいるのではないかと発表しました。(舟木秋子)